

# 平成30年度 学校評価



- A: 申し分ない取り組みが行われ、十分な成果を上げている。
- B: 必要な取り組みが行われ、改善に向けた成果を上げている、もしくは上げつつある。
- C: 改善に向けた取り組みが見られるが、成果が不十分である。
- D: 直ちに改善を図らなければならない様子が見られるが、改善に向けた取り組みに着手できていない。

大川村立大川小中学校

項目1		(知)教育課程・学習指導(かしこく)	評 定			
学校教育目標		大川村に夢と希望と感動を!		自己評価		関係者評価
中長期経営目標		少人数学習を生かしたきめ細やかな小中一貫教育の充実		前年度	B	B
短期経営目標		確かな学力の定着と向上		本年度	A	A
評価項目(目標達成に向けた具体的な取組)		達成基準	達成状況 <具体的取組の自己評価>			
1	<p><b>【授業づくり】</b>                      ○探究的・主体的な授業づくりのための授業スタンダードを、日々意識して取り組む。                      ○1人1回以上の公開授業研修を行う。                      ○授業参観の視点を明確にし、日々の授業に生かせる事後協議を行う。                      ○全校研の授業では事前に指導案検討会を行い、共通認識の元に授業を実施、参観する。</p>	<p>○全国学力・学習状況調査、県学力調査、CRT等で平均+5を達成する。                      ○大川小中授業スタンダードを活用し、児童の発言する場を多く持つ。                      ○学校評価アンケートで、児童が学習に関する取組に対して肯定的な評価を90%以上とする。</p>	<p>○全国学力・学習状況調査において小学校は、算国(A・B)の平均が、全国比+10.9、中学校は、数国(A・B)の平均が、全国比+1.4であり、目標値の「+5」には、小学校は、多く達成されたが、中学校は、もう少しだった。また、県学力調査では、小学校の算国と中学校の英数国理社のすべての合計の平均値が74.5で、昨年より53より、21.5ポイントのプラスだった。CRTについては、全国正答率に対して、小学校は6.2、中学校は+4.5だった。                      ○全クラスの日々の授業で大川小中授業スタンダードを活用し、自分の考えを持たず時間を確保することにより今まで自信がなく発言できなかった児童生徒の発言が、昨年より増えた。                      ○学校評価アンケートの「授業中はよく考え、自分の意見を発表できていますか」において肯定的な評価が89%で、概ね達成されたと思われる。</p>			
2	<p><b>【コミュニケーション】</b>                      ○児童生徒用アンケートの作成を通して、児童生徒につけたい力を明確にする。                      ○コミュニケーション力をのばすためのあらゆる場面での指導の工夫を交流し、効果的指導内容、方法を共有化する。</p>	<p>○独自に作成する児童生徒アンケートにおいて、コミュニケーション力が伸びたなどの肯定的評価が80%以上</p>	<p>○児童生徒用アンケートを作成し、年間2回アンケートを実施した。アンケートの結果、「自分の思いや考えが相手にうまく伝わっていないと感じたり、伝えることが苦手と感じることがある。」という項目において6月は、肯定的な評価が36%であった。2回目(2月)は32%であった。しかし、苦手と感じることが「全くない」と回答している児童生徒が4%から21%に上がっている。                      ○コミュニケーションポイントと相手を意識することでコミュニケーションがうまくとれるようになったかという設問に対しての児童生徒の肯定的回答が97%、教職員の肯定的回答が95%となっており、成果が見られた。                      ○各学級だけでなく、発表集会などでも相手を意識して、相手が分かるように思いや考えを伝えることの大切さを子ども達に伝え、コミュニケーションに対する意識付けを行った。</p>			
3	<p><b>【ICT】</b>                      ○授業における効果的なICT活用事例を集積し、授業改善に活用する。                      ○iPadを活用した効果的な家庭学習を研究する。                      ○ICT活用研修を継続して行い教員の活用技能の向上を図る。</p>	<p>○授業における効果的なICT活用事例の交流会を通じて集積し、授業改善に活用する。                      ○評価アンケート等で、取り組みに対して肯定的な評価を80%以上とする。</p>	<p>○ICT活用事例交流会を校内研に位置づけ実施するとともに、10月17日には講師(放送大学 中川一史教授)を招聘して全校授業研究会を行った。                      ○ICT活用アンケート(児童生徒-授業)にて、①楽しく、②進んで、③自分のペースで、④協力して学習、のそれぞれの項目で肯定群100%。全項目平均で肯定群95%。同(持ち帰り学習)にて、①できた、②楽しい、③わかりやすい、④進んでが93%以上。⑤集中できたかは89%。全項目平均90%。</p>			
改善 方策	<p>○B問題の学力向上に対して、日常生活と関連した問題を教材としたり、課題に沿って深く考える学習を日々の授業の中で位置づけていく必要がある                      ○コミュニケーション力について、子どもの意識は向上したが、実態はまだ不十分である。そこで授業の中に発表する場を位置づけたら、日常のあいさつや発表集会、他校との交流など、あらゆる場面で思いを伝える場を設定し肯定的な評価を与え、コミュニケーション力を伸ばしていきたい。                      ○授業における効果的なICT活用事例の交流会を継続する。授業と連動した家庭学習を設定し、子どもが意欲的になるiPadの活用について研究していく必要がある。</p>		関係者 評価 講評	<p>○学力テストで数学と国語の結果が良かったし、研究のコミュニケーション力やICTでもいい結果だったので関係者評価をAにしたらいいいと思う。</p>		

項目1		(徳)心の教育(やさしく)	評 定	自己評価	関係者評価
学校教育目標	大川村に夢と希望と感動を!				
中長期経営目標	豊かな心の育成				
短期経営目標	思いやる心を言葉や行動で表し、自尊感情の高い子どもや共に伸びる仲間集団の育成				
評価項目(目標達成に向けた具体的な取組)		達成基準	達成状況 <具体的な取組の自己評価>		
1	<b>【道徳教育】</b> ○道徳の時間の充実 ・ICT、場面絵などを効果的に使う ・全教員による道徳の授業の実施 ・道徳公開授業の実施 ○道徳の評価について ○のびのびタイムの充実	○道徳アンケート: 肯定的児童 ・全項目90%以上 ○学校評価アンケートにおいて、「学校生活は楽しいですか」に対して肯定的評価90%以上	○道徳アンケートの結果、小学校は、肯定的評価が、96.8%、中学校が、94.5%で目標値の「90%以上」を達成することができた。 ○学校評価アンケートにおいて児童生徒の「学校生活は楽しいですか」のアンケート項目に対する肯定的な評価が93%で目標値の「90%以上」を達成することができた。		
2	<b>【生徒指導】</b> ○心の教育推進 ・学期に一回のいじめアンケートの実施 ・hyperQU年2回実施 ・相談体制の充実 ・特別な支援を要する児童を含む児童理解のための定期的な支援会の実施 ・SCの定期的な面談 SSWの効果的な関わり	○いじめ解消率:100% ○1、2回目のhyperQUでは、学校生活満足群の児童を90%以上 ○支援委員会を学期に1回は行う。	○1学期および2学期にいじめやいじめに類似した事案があったが、指導の結果一定の解消を見た。現在は、経過を慎重に観察している状態である。 ○2回目Q-Uでは、学校生活満足群の児童生徒は75%、不満足群児童生徒:1名 ○SCや特別支援担当の指導主事なども交えた支援委員会を、年間10回(予定を含む)実施し、指導に活かしている。		
3	<b>【図書・読書活動】</b> ○朝読書・読み聞かせの実施 ・図書支援員と協力して計画的に行う ・小学生が保育園児へ、上級生が下級生への読み聞かせ ○委員会活動の充実 ・学期に一回程度、読書クイズなどの活動を行う。	○生徒アンケートで、「読書が好き」と答える割合90%以上 ○読書量を調べ、学期ごとに比較、向上をはかる。 ・小学生の図書貸出数の目標(低学年130冊、中学年100冊、高学年60冊) ・小学生の図書貸出数の目標全校総数100以上 ○図書室の利用数の増加	○生徒アンケートで、「読書が好き」と肯定的に答える割合は、中学100%、小学100%。目標値の「90%以上」を達成することができた。 ○4月から1月末までの図書貸出数において小学校の低学年の平均は、55冊、中学年は94.3冊、高学年は、23.3冊、中学生は、17.1冊で小学校の中学年は、目標値をほぼ達成することができた。		
改善方策	○道徳の教科化に伴い、道徳の教材や授業について改善していく。 ○SCや指導主事の支援訪問などを活用し、児童生徒の支援体制の充実を図る。 ○「好き」な割に図書の貸し出し数が少ないことを、図書委員会の活躍をもって解消していきたい。		関係者評価講評 ○高学年の読書数が、少ないのは、学校の図書室の本が、少なかったり、また、高学年は、読みたい本をもう、読んでしまっているのかもしれない。山村開発センターの本も増やしては、どうか・・・? ○学校では、毎年、10万円分ぐらいの本を増やしているし、本を借りずに読んでいるので、【図書・読書活動】での、高学年の冊数の数字だけで判断するのは、どうかと思う。 ○学校の図書室の貸出数だけで判断するのではなく、図書の本以外で読んでいる児童生徒もいるのでは。		

項目1		(体)健康・体力(たくましく)	評 定			
学校教育目標		大川村に夢と希望と感動を！		自己評価	関係者評価	
中長期経営目標		健やかな体の育成		前年度	B	B
短期経営目標		運動習慣を身につけ、体力と技能の向上		本年度	B	B
評価項目(目標達成に向けた具体的な取組)		達成基準	達成状況 <具体的な取組の自己評価>			
1	<p><b>【健康教育】</b>                      ○保小中の生活調べを11月に実施する。                      ○生活調べの結果を通信で配布する。                      ○生活リズムの学習を実施する前後に行う。                      ○保護者への啓発便り・評価表</p>	<p>○学校評価アンケートの「生活リズムに気を付け、規則正しい生活をしていますか」に対して肯定的評価80%                      ○個人の課題を児童と保護者に説明する場の設定                      保護者に子どもの頑張りを評価し、親の協力を要請する</p>	<p>○学校評価アンケートの「生活リズムに気を付け、規則正しい生活をしていますか」に対して、肯定的評価は、保護者は78%、児童生徒86%。                      ○月2回程度定期的に発行する保健便りにおいて定期的に生活リズムの大切さを保護者に伝えた。また学期末懇談の際、担任を通し、生活面で気を付けることを保護者に連絡してもらった。</p>			
2	<p><b>【運動能力】</b>                      ○体力づくりの充実                      ・年間を通して、計画的な体力づくりを進める                      ○体育行事の実施                      ・水泳大会・マラソン大会・運動会など体育行事に向けた取り組みで体力向上を図る。</p>	<p>○男女とも長座体前屈、50m走、ボール投げが県平均以上を目指す。                      ○生活アンケートをもとに生活の実態把握し、改善する。</p>	<p>○男子は、長座体前屈が88%、50m走は75%、ボール投げ25%と県平均に向けての達成率となった。女子は、長座体前屈100%、50m走67%、ボール投げ50%の達成率となった。                      ○生活アンケートでは、概ね改善されている。留学生の体力の向上や、2学期までに行事が多く、体育の授業が十分実施できていないこともあり、来年度の改善点といえる。</p>			
3						
改善 方 策	<p>○「走」「ボール投げ」に課題が認められるため、講師の招聘などして走力アップを目指す。                      ○小学児童が、楽しく遊びながら体を動かせる工夫をして、体力アップを目指す。                      ○中学生の部活動や授業において、運動量を十分に確保する工夫をし、体力アップを目指す。</p>		関係者 評 価 講 評	<p>○マラソン大会が、終わってから急に朝のマラソンをやめるのはどうかと思う。一年中、走っては、どうか。                      ○スクールバスで、ほとんどの子が登下校しているの運動量が少なく、体力の弱さにつながっているように思う。                      ○学校だけの問題でなく、自然の中で遊ぶことも大事。                      ○遊具で遊んだり、遊びの中で体力をつけることが大事ではないか。</p>		

項目 1		(知・徳・体)保護者・地域・関係機関との連携 防災・安全教育		評 定	自己評価	関係者評価
学校教育目標	大川村に夢と希望と感動を！					
中長期経営目標	コミュニティ・スクールを基盤とした学校運営 防災・安全教育の推進			前年度	B	B
短期経営目標	学校評価や学校経営計画の取組を活用し、組織的・効果的な学校運営の推進 危機を察知し、回避しようとする意識、能力を身に付け、行動できる児童の育成			本年度	A	B
評価項目(目標達成に向けた具体的な取組)		達成基準		達成状況 <具体的取組の自己評価>		
1	<p>【コミュニティ・スクール 地域学校協働本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営協議会の開催と充実</li> <li>○PTA活動の充実</li> <li>○学校だよりの発行とホームページの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域・学校との連携の充実により、子どもたちが地域と積極的に関わる。</li> <li>○保護者・地域・学校がともに教育活動を行い、学校行事の充実や教育環境を整備する。</li> <li>○学校だより年間13回発行と地域に開かれたホームページの内容を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主要な学校行事において、お知らせを出すとともに、多数の参加を得ることができた。</li> <li>○1月現在で11号の学校便りを出している。またA3サイズにすることで、内容を増やすとともに、見やすさを考慮している。</li> <li>○1月現在で、公式ホームページは113記事(修学旅行、自然体験の報告を含む)、会員制サイトは102記事を掲載している。</li> </ul>			
2	<p>【防災・安全教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○避難訓練を計画的に実施</li> <li>○大川村総合防災訓練への参加 大川村の防災訓練に全校で参加し、防災に関する知識を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様なシーンを想定して避難訓練を年3回は実施する。</li> <li>○学校評価アンケートで、安全管理、安全教育への取り組みに、対して肯定的な評価を90%以上</li> <li>○大川村総合防災訓練に参加し、すべての児童生徒が防災に関する知識・体験を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○火災、地震を想定した避難訓練を実施することができた。</li> <li>○学校評価アンケートで、安全管理、安全教育への取組に対して肯定的な評価100%(保護者)</li> <li>○大川村総合防災訓練に参加し、避難訓練とともに、模擬炎による消火訓練を全員が行った。</li> </ul>			
3						
改善 方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子供の声が村内に響くよう村内放送で学習活動の成果を発表する機会を増やす。</li> <li>○授業の学習活動や発表活動として、地域でのふれあいができるような機会を増やす。</li> <li>○安全教育では、子ども達の将来に関わる色々な学習ができるようにしていきたい。</li> </ul>			関係者 評 価 講 評	<ul style="list-style-type: none"> <li>○村の避難訓練に参加するだけでなく村道が、地震で崩れたらどうするかなど、身近な例での防災教育を総合などでしたらいいのでは・・・?</li> <li>○将来、起こるといわれている南海地震についてぜひ学習をしてほしい。将来、高知市や海岸沿いに住むこともあるので・・・。</li> <li>○学校は、自己評価をAとしている。実際、コミュニティ・スクールの活動において頑張っており、去年より良く取り組んでいてアンケートの結果もいいが、今後の展開を見ながら判断する必要があるので、今年度はBしておくといい。</li> </ul>	